

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

建学の精神に則り、未来を生き抜くことができる資質・能力を培い、社会に貢献する自立した女性を育てる学校をめざす。本校では、「社会に貢献する自立した女性」を育成するために必要な資質・能力を、学力・協働性・主体性の3つと考える。この3つの資質・能力を構成する、『学ぶ力、考える力、解く力、認め合う力、行動する力 (KINRAN PRIDE)』を全ての教育活動を通じて育成する。

#### (1) 学力

- ① 学ぶ力＝生涯にわたり絶えず学び続けようとする意欲・姿勢
- ② 考える力＝習得した基礎的・基本的な知識・技能を、社会における様々な場面で活用できる力
- ③ 解く力＝習得した知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果を獲得するとともに、その成果を発信する力

#### (2) 協働性

認め合う力＝「ありのままの自分」を認め、他者の多様な個性や価値観、文化を理解し互いを尊重し人間関係をつくる力

#### (3) 主体性

行動する力＝自らの役割を把握し、その役割を果たすため、自リツ(自立・自律)的に行動する力

### 2 中期的目標

#### (1) 学校教育デザインの確立

##### ① 学校教育デザインの具体化

全ての教職員は、「これからの社会に貢献する自立した女性」を育成する学校教育デザイン（めざす学校像・生徒に育みたい力）を具体化、共有化し、生徒・保護者に発信するとともに、日々の教育活動を見直し、生徒指導、学習指導を改善する。

##### ② 「5つの力」の育成を実現する魅力的な学校づくりの推進

ア) グローバル人材の育成と近年強化していた英語教育の取り組みを活かした国際理解 (GS) コースを設置する。

イ) 学校教育デザイン（めざす学校像・生徒に育みたい力）に向けて現コースの成果と課題を検証し、コースのカリキュラム改編を含めコースの再編を検討する。

ウ) 中学部においても、その成果と課題を検証し、円滑な中高接続ができるように、カリキュラム改編を含め中学部の充実を図る。

#### (2) 学力の向上

##### ① 学力向上策（基礎学力・学習習慣定着策）の実施

ア) 教職員は自ら「学ぶこと」の重要性を理解し、それに基づいて教育活動を行う。

イ) 多様な生き方を自分で判断し選択できる女性を育成するために、教職員は生徒に対して、「学ぶこと」の意味を理解させ、「学ぶ意欲」を喚起することで「自己効力感」を持たせる。あわせて、授業規律の確立、ICTの活用などで家庭学習の定着を図ることで、基礎学力の充実を図る。

##### ② 授業力の向上

教職員の授業力向上を図ることで、すべての教科において、アクティブ・ラーニングを推進し、基礎的な知識や技能を活用し、論理的に考え、まとめ、発表する力を育成する。

##### ③ 「総合的な探究の時間」のプログラムの確立

「総合的な探究の時間」（高校）・「総合的な学習の時間」（中学）のプログラムを確立するなかで、多様な人々・文化の出会いを通じて、コミュニケーション力、課題設定・課題解決能力を育成する。

#### (3) 進学実績の向上

##### ① 3年間・6年間を見通した進路指導体制の確立

ア) 進路指導部は、各学年・教務部と連携し実力テストや模試等の客観的なデータを活用し、高校3年間を見通した進路指導体制を確立し、これからの社会で自立して生きていくために必要とされる、進路意識の醸成としっかりとした学力を育成する。

イ) 中学部は進路指導部と連携し、中高連携を図り、高校進学を含めた6年間を見通した進路意識の醸成としっかりとした学力を育成する。

##### ② キャリア教育の推進

これからの社会に貢献する自立した女性を育成するため、各コースは、金蘭会の強みである教育的リソース（大学、保育園、病院等）を活用したキャリアプログラムを確立し、社会で求められる女性の生き方、働き方を考える、3年間・6年間を見通したキャリア教育プログラムを策定する。

##### ③ 千里金蘭大学・金蘭会保育園との連携

千里金蘭大学とのより効果的で密接な連携により、内部進学者を増加させる。

#### (4) 安全安心な学校づくりと自立・自律する力の育成

##### ① 人間関係づくりの充実

各学年が、HRや道徳、学校行事等を通じて、生徒一人ひとりが多様な生き方を自分で判断し選択できる女性に必要とされる、自分のすばらしさを認め他者を尊重し受け入れる豊かな心を育み、多様性を尊重し共生する力、自立・自律する力を育成する。

##### ② 生徒の主体性の育成

生徒指導部は、生徒指導方針や学校行事の目的・意義を再確認し、多様な生き方を自分で判断し選択できる女性に必要とされる主体的に考え行動する力を育成する。

##### ③ 支援が必要とされる生徒への対応

ア) すべての教職員は、「支援」という観点で日々の教育活動を見直す。

イ) 生徒支援委員会は各学年と連携して、発達特性や不登校傾向生徒への支援策を検討し実施する。あわせて、スクールカウンセラーだけでなく、外部の医療機関等との連携も強化する。

#### (5) 魅力的な学校づくりと機能的な学校運営の確立

##### ① 募集広報活動の強化と体制の充実

本校がめざす新たな教育の魅力を全面的にアピールするため、保護者や受験希望者、中学校や塾等のニーズを把握し、評価と分析を徹底し効果的な募集広報戦略を立てる。

##### ② PDCAサイクルの徹底

各分掌・学年は、具体的なデータや根拠に基づいた総括や評価を徹底し、課題と方針を明確にするPDCAサイクルを確立する。

##### ③ 組織運営体制の充実と教師力の向上

機能的な組織運営を図るため、職務の役割と責任を自覚する。計画的な人事計画のもと、適切な教員配置を実現する。また、外部教育機関等との連携を深め、教職員のスキルアップを図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学校教育デザインの確立	(1) 学校教育デザインの具体化  (2) 「5つの力」の育成を実現する魅力的な学校づくりの推進	○組織方針の立案と組織の活性化 各部長・主任は、各組織をまとめ、「5つの力」を3年間(6年間)で育成する方針を明確化し、組織間連携を深め、職員会議、企画運営委員会、教科主任会議を通じて共有化する。  ① カリキュラムの充実 生徒主体の探究的な学習、教科横断型の学習等の成果を発展させるとともにカリキュラム全体に広げる。 ② コース特別プログラムの充実 進路部と教務部との連携のもと、千里金蘭大との連携を日常的な取り組みに発展させる。他の組織(医療機関、幼稚園・保育所、大学)との連携も推進する。 ③ 学力向上の取り組み 生徒の学力実態を検討し、各教科で高1での内容を充実させるとともに、高2での取り組みを検討する。また、中学部においても実施する。 ④ 中学部のカリキュラムの充実を 国・数・英におけるリメディアルの実施、職場体験や中高大連携プログラム等によるキャリア教育の実施、道徳・総合的な学習の時間の充実、千里金蘭大学・金蘭会保育園との連携強化など中学の特色化を図る。	●アンケート「満足度」 (保護者)95% [92%(R3)] (生徒)95% [92%(R3)] (教員)85% [75%(R3)]  ●アンケート「特色ある教育活動」 (保護者)85% [79%(R3)] (生徒)85% [76%(R3)] (教員)70% [35%(R3)] ●アンケート「教育方針明示」 (保護者)85%[79%(R3)] ●キャリアプログラム体験週間の実施	
2 学力の向上	(1) 学力向上策の実施  (2) 授業力の向上  (3) 「総合的な探求の時間」のプログラムの確立	○リメディアル学習の改善・充実 [高1]到達度別授業([英語]ベーシック・アドバンス)リメディアルの充実(国数英3教科における到達度別授業) [高2]英語表現Ⅱでの到達度別授業(ベーシック・アドバンス) 中学部 [国語]中1:毎週土曜1時間実施(語彙力・読解力・表現力[読み・書き]) [数学]中1:毎週1時間をチームティーチング 中2・3:到達度別授業(ベーシック・アドバンス) [英語]中1:2学期以降、毎週1時間実施 中2: :毎週土曜1時間実施  ① 教科主任会議の定例化(月1回第4木曜) 教科主任の役割を明確にし、生徒の学力実態の課題を明確化しカリキュラム編成や授業改善を推進する。 ② 授業・評価検討委員会の設置(月1回第4木曜) 教科主任会議で明確になった課題解決に向け、授業改善、観点別評価、効果的・率的なカリキュラムの編成を推進する。 ③ 金蘭若手塾の実施(月1回) 教職経験2~3年目の教員を中心に、授業づくり(や学びたいことについてのミニ講座による日常的な授業力向上を図る。 ④ 金蘭会授業スタンダードの作成 授業づくりに必要な要素(生徒主体の授業、生徒の力を引き出す授業)を中心に本校に学びの文化をはぐむ授業モデルを確立するためのステップとして作成する。 ⑤ 授業改革アクションプラン検討 金蘭会の内部・外部要因を分析し、「攻める金蘭会」をめざした授業改革アクションプランを検討する。 ⑥ 公開授業の実施 授業観察や公開授業等を通じ、ベテラン教員の熟達したスキルを共有することで本校全体の授業の質を高める。 ⑦ 管理職による授業観察の実施(年2回、6月・11月実施)  ① 探究プログラムの確立 昨年度の実践を土台として、プログラムの構築を図る。本校での成果や先進校の取り組みを参考に、キャリア教育の観点を含め、「総合的な探究の時間」をプログラム化する。 ② 「総合的な学習の時間」(中学)のプログラム化 道徳などの成果を取り入れ、国際交流、伝統文化、食育の分野で、キャリア教育の観点を含め、 ③ 千里金蘭大学、金蘭会保育園との連携強化 各教科は、課題解決学習の実施やコース別学習の充実に向けて、千里金蘭大学、金蘭会保育園や卒業生(同窓会)との連携を深める。	●アンケート「授業満足度」 (保護者)75% [66%(R3)] (生徒)80% [70%(R3)] ●アンケート「授業改善」 (保護者)85% [75%(R3)] (生徒)80% [71%(R3)] (教員)90% [85%(R3)] ●アンケート「参加体験型」 (生徒)60% [44%(R3)] (教員)80% [65%(R3)] ●アンケート「考えをまとめ発表」 (生徒)80% [71%(R3)] (教員)70% [55%(R3)] ●アンケート「習熟度別指導」 (生徒)80% [74%(R3)] (教員)50% [65%(R3)] ●アンケート「家庭学習定着」 (保護者)80% [71%(R3)] (生徒)75% [65%(R3)] (教員)75% [63%(R3)] ●アンケート「キャリア教育」 (生徒)90% [80%(R3)] (教員)65% [50%(R3)] ●アンケート「生き方を考える」 (保護者)85% [77%(R3)] (生徒)70% [65%(R3)] (教員)80% [60%(R3)] ●授業公開と研究協議会の開催 ●外部講師による研修	

<p>3 進学実績の向上</p>	<p>(1) 3年間或いは6年間を見通した、一貫した進路指導体制の確立</p> <p>(2) キャリア教育の推進</p> <p>(3) 千里金蘭大学・金蘭会保育園との連携</p>	<p>① 教職員研修の実施 最新の入試状況に関する研修を実施し、教員の進路指導力の向上を図る。また、教員個々の授業力の向上、カリキュラムの見直しを図る。</p> <p>② 的確な進路情報の提供 コース別進路先の明示など生徒保護者の進路意識向上に向けわかりやすくて確かな情報を提供する。</p> <p>③ 生徒や保護者が主体となる進路指導の充実(担当:進路指導部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「錬成講座」(週3日)、「特別講習」</li> <li>・ 「学びのステーション」・「コース特別プログラム」(長期休業)</li> <li>・ 「保護者対象進路研究会」(月1回)</li> </ul> <p>① 「高大連携プログラム」の充実 高校・大学間に担当者・実務者会議を設置し、進路HR、「総合的な探究の時間」、各教科、その他学校行事等で円滑に効果的な高大連携を進める。</p> <p>② 中学部でのプログラムの充実 高校の授業見学・体験(各コース独自カリキュラム) 中2職場体験(次年度[現中1実施、現中2先行実施]、各教科での中高大連携プログラム</p> <p>○千里金蘭大学との高大・中大連携の強化及び内部進学促進</p>	<p>●アンケート「進路指導(連携)」 (保護者)80%[72%(R3)] (生徒)85% [75%(R3)] (教員)75%[65%(R3)]</p> <p>●アンケート「進路指導(取り組み)」 (保護者)90% [79%(R3)] (生徒)80% [71%(R3)] (教員)75%[60%(R3)]</p> <p>●保護者対象の進路説明会実施</p> <p>●アンケート「キャリア教育」 (保護者)90% [80%(R3)] (生徒)90% [80%(R3)]</p> <p>●アンケート「生き方・将来を考える」 (保護者)85% [77%(R3)] (生徒)75% [65%(R3)] (教員)80% [60%(R3)]</p> <p>●コース独自キャリアプログラムの実施</p> <p>●アンケート「大学等との連携」 (保護者)75% [45%(R3)]</p>	<p>*</p>
<p>4 安全安心な学校づくりと自立・自律する力の育成</p>	<p>(1) 人間関係づくりの充実</p> <p>(2) 生徒の主体性の育成</p> <p>(3) 支援が必要とされる生徒への対応</p>	<p>① 市民として主体的に社会に参画する力の育成 成人年齢が18歳になることを受け、生徒が主人公の楽しく充実した学校生活を送ることのできるクラス・学年集団づくりを行う。</p> <p>② 学年の3年間を見通した「学年集団づくり」方針の確定 学年主任は学年を統括し、生徒の状況の集約に努め、LHRや行事等を通じた具体的な活動方針を策定する。</p> <p>③ 主体的・自治的な取り組みの促進 学年は、学年行事(修学旅行、遠足等)での生徒による主体的・自治的な取り組みの促進を図るため、生徒実行委員会等を組織する。</p> <p>① 生徒自治会の活性化 生徒一人ひとりが考える「学校生活における課題」をアンケート(6月初旬実施予定)により把握し精査して、解決に向けて自治会の活動として具体化する。</p> <p>② 2022年度高校入学生以降の修学旅行の改革 中学部や先行学年の取り組み等をはじめ、教育活動の一環として『総合的な探究の時間』との連携を通して、明確な目標(SDGsに関わる学習、平和・人権学習、多文化理解等)を設定し、生徒自身が企画運営できる修学旅行にモデルチェンジする。</p> <p>③ 生徒指導方針の見直し(担当:生徒指導課) 生徒指導方針の課題を明確化し、PTA(保護者)・生徒自治会(生徒)を含めた3者で協議をすすめる。</p> <p>① 支援を必要とする生徒の情報と支援策の共有化 生徒支援委員会は、支援を要する生徒に対する情報をもとに、支援策の必要性と具体案を学年に提案する。</p> <p>② 不登校生徒対象の学習支援体制の充実 学習支援室、生徒相談室を設置する。また、学習支援方針は、状況を配慮し、授業のライブ配信などオンライン授業での方策等を活用する</p> <p>③ 外部機関との連携 生徒を取り巻く関係機関(出身中学校・小学校、福祉・医療機関)との連携を強化し、生徒の実態に応じた支援を実施する。</p> <p>④ 地域との連携の強化 地域の諸機関(地元中学校・小学校、諸団体)との連携を図り、地域に貢献する生徒を育成する。</p>	<p>●アンケート「人権教育」 (保護者)85% [77%(R3)] (生徒)75% [65%(R3)] (教員)65% [30%(R3)]</p> <p>●アンケート「いじめへの対応」 (保護者)90% [80%(R3)] (生徒)80% [73%(R3)] (教員)85% [50%(R3)]</p> <p>●アンケート「安心安全な環境」 (保護者)80% [74%(R3)] (生徒)80% [71%(R3)] (教員)90% [85%(R3)]</p> <p>●アンケート「生徒指導方針」 (保護者)85%[79%(R3)] (生徒)80% [73%(R3)] (教員)70% [55%(R3)]</p> <p>●アンケート「方針への共感」 (保護者)85% [76%(R3)] (生徒)75% [68%(R3)] (教員)90% [75%(R3)]</p> <p>●アンケート「学校行事」 (保護者)90% [83%(R3)] (生徒)85% [79%(R3)] (教員)80% [65%(R3)]</p> <p>●アンケート「生徒自治会活動」 (保護者)80% [73%(R3)] (生徒)75% [66%(R3)] (教員)65% [45%(R3)]</p> <p>●アンケート「教育相談体制」 (保護者)85% [77%(R3)] (生徒)65% [55%(R3)] (教員)95% [65%(R3)]</p>	

<p>5 魅 力 的 な 学 校 づ く り と 機 能 的 な 学 校 運 営 の 確 立</p>	<p>(1) 様々な場面を通じた効果的な募集広報活動への改革</p>	<p>① イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の成長し変化した姿など具体的な事例を多く提示したコンパクトな説明と、丁寧な個別対応の実施</li> <li>生徒が主体的に関わるオープンスクールや生徒だけの学校説明会の実施。</li> </ul> <p>② 訪問活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>回数や重点地域、タイミングなどを過去の分析を進め3月から開始</li> <li>卒業生へのアプローチなど訪問先を拡大</li> </ul> <p>③ 出前授業の充実・外部相談会への積極的な参加（</p>	<p>I ●中学校オープンスクール参加数 各回 20 組以上</p> <p>●中学校入試説明会参加数 各回 20 組以上</p> <p>●高校オープンスクール参加数 各回 100 組以上</p> <p>●高校入試説明会参加数 各回 100 組以上</p>	
	<p>(2) 将来安定的な中学入学者の獲得</p>	<p>① 地域との連携強化 北区との連携事業授場への参加、土曜日プログラムの復活（小学生対象の英会話教室など）を復活</p> <p>② 金蘭会保育園のとの連携強化</p>		
	<p>(3) PDCAサイクルの徹底</p>	<p>○各分掌学年は、具体的なデータや根拠に基づいた総括や評価を徹底し、課題と方針を明確にするPDCAサイクルを確立する</p>	<p>●学校運営協議会の実施</p> <p>●自己評価アンケート結果と学校運営協議会評価のホームページ公開</p>	
	<p>(4) 組織運営体制の充実と教師力の向上</p>	<p>① 主任・部長の職責の徹底 責任を持った学年・分掌運営の徹底を図るため、生徒状況の把握と分析、学年方針の明確化と具体的な方策の実施、総括と改善策の実施などを行う。</p> <p>② 組織体制の改革 組織体制の改革を推進するため、現行の部・課体制を精査し、不必要な部署は解体しスリム化を図る。また、教員の育成の観点で人事配置も見直しを行う。</p>	<p>●教職員研修の実施</p> <p>●若手対象教職員研修の実施回数</p> <p>●アンケート</p> <p>「教員間連携」 60% [20%(R3)]</p> <p>「会議運営」 65% [55%(R3)]</p> <p>「計画的な研修」 70% [55%(R3)]</p> <p>「若手教員の育成」 50% [20%(R3)]</p> <p>「校外研修」 60% [25%(R3)]</p>	